

## 鳥類が生態系機能に果たす役割

東條一史・田中浩（森林総合研究所）

鳥類は食物連鎖の高次捕食者であり、森林生態系においても、餌の捕食、種子散布、受粉などにおいて重要な役割を果たしている。種子や果実は多くの森林性の鳥にとって秋冬期の重要な餌であり、その摂食活動に伴って起こる種子散布と種子消費はその森林の植物群集の動態に多大な影響を与えると考えられる。これらの機能を定量的に理解するためには、森林に生息する鳥類の各種が果たす役割を明らかにすると同時に、秋冬期の鳥類群集の動態を調べる必要がある。しかし、一般に森林性鳥類群集の調査は年次変動が少ない繁殖期に行われることがほとんどであり、秋冬期の鳥類群集は年次変化が大きく、また調査が技術的に難しいため、基礎的データすら少ないのが実状である。ここでは小川学術参考保護林における秋冬期の鳥類群集のモニタリング調査のデータから、鳥類が種子の捕食と散布を通じて生態系に果たす役割を考える。

調査は小川学参林の6haのコアプロットを含む12haプロット内で行い、12点による半径50m、10分間のポイントカウントを、1995-2005年の10月から翌3月にかけて毎月行った。初期のデータではシジュウカラ科やキツツキ科の鳥類の年次変動が少なかったのに対し、種子食性のアトリ科の鳥類と、果実食性のツグミ科の鳥には大きな年次変動が見られた。講演では、全期間の鳥類群集の年次変動を示し、それが植物種子の生産とどう関連しているかを検討する予定である。